

令和9年度（2027年度）入学者選抜の実施に係る第3次公表（予告）について

山口県立大学では、令和9年度（2027年度）入学者選抜に係る変更について、2回にわたり公表（予告）してきた（第1次：令和6年6月28日、第2次：令和6年11月29日）。

このたび、これまでの公表（予告）内容に以下のとおり変更が生じたことから、第3次予告として公表する。

- 1 令和8年度大学入学者選抜実施要項（令和7年6月3日付け7文科高第313号文部科学省高等教育部長通知）に合わせ、一般選抜の試験区分における「個別学力検査等」という表現を変更。それに伴い、全体的に表現を整理して記載。[9ページ～27ページ]
- 2 面接における調査書等の取扱いについて、表現を整理して記載。[9ページ～27ページ]
- 3 学校推薦型選抜の出願資格を変更。それに伴い、各学科の出願要件の表現を変更。[16ページ～22ページ]
- 4 総合型選抜の出願資格を変更。それに伴い、各学科の出願要件の表現を変更。[23ページ～27ページ]
- 5 看護栄養学部看護学科の総合型選抜の評価基準を変更。[26ページ]

なお、このたびの公表内容はあくまでも予定であり、今後内容が変更となる可能性がある。変更があった場合は、随時本学のホームページにて通知する。

令和9年度（2027年度）入学者選抜合格者に実施する入学前学習について

山口県立大学では、総合型選抜、学校推薦型選抜の合格者全員を対象に入学前学習を実施している。令和9年度入学者選抜の変更に伴い、入学前学習についても以下のとおり変更する。

[28ページ]

- 1 現在、学校推薦型選抜合格者に実施している入学前学習に、栄養学科については化学、生物を追加。
- 2 学校推薦型選抜合格者と同様に、総合型選抜合格者にも大学入学共通テスト受験を推奨。
- 3 看護栄養学部で総合型選抜が実施されることに伴い、他学部と同様に、看護栄養学部の総合型選抜合格者にも大学入学共通テスト受験を推奨及び入学前学習を実施。

令和9年度（2027年度）入学者選抜の実施について

1 基本方針

山口県立大学が定めた「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、「学力の3要素」である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。

2 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

（1）国際文化学部 国際文化学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、国内外の多様な文化や価値観について学ぶための基礎的な知識や理解力と語学力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

国内外における多様な文化や価値観について自分の考え・意見をまとめ、論理的に分かりやすく伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考え方を持つ人々と信頼関係を構築し、地域の国際化や多文化共生に積極的に挑戦しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

国際文化学科では、地域の国際化や多文化共生社会の実現に貢献できる人材の育成を目標とした教育を行っています。そのため、高等学校段階までのすべての教科の基礎的な知識・技能と積極的に学ぼうとする態度が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」：基礎的な文章理解力、表現力、思考力、コミュニケーション能力
- ▶「外国語（英語）」：基礎的な文章理解力、表現力、思考力、コミュニケーション能力
- ▶「地理歴史・公民」及び「理科」：高等学校教育課程修了にふさわしい基礎的な学力
- ▶「数学」及び「情報」：高等学校教育課程修了にふさわしい基礎的な学力とその学力を地域のデジタル化推進のために主体的に活用しようとする姿勢
- ▶その他、「芸術」、「家庭」、「保健体育」など、あらゆる分野にわたって基礎的・常識的な知識と関心を持ち、新しい課題に対して積極的に取り組もうとする態度を備えていることが望まれます。

③ 入学者に求め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

入試種別	一般選抜						学校推薦型選抜						総合型選抜		外国人留学生選抜					
	前期日程			後期日程			県内高校枠			地域貢献人材発掘枠										
選抜方法	大学入学共通テスト	小論文	面接	大学入学共通テスト	面接	小論文	面接	調査書	小論文	面接	調査書	活動報告書	一次選抜	二次選抜	自己推薦書	講義面接試験	日本留学試験	小論文	面接	
	700	200	100	700	200	150	100	50	150	100	50	100	100	200	100					
評価の比重(*1)	70	20	10	78	22	50	33	17	38	25	13	25	100	67	33	総合的に評価する				
評価の観点	《知識・技能》	○	○		○		○		○	○		○		○		○	○	○	○	○
	《思考力・判断力・表現力》	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》			○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(*1) 各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）であり、小数点以下を四捨五入した。

(2) 国際文化学部 文化創造学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、地域文化の探究と創造について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けています。

《思考力・判断力・表現力》

ことばや絵・デザインなどの情報を駆使して、日本文化や地域文化の価値について、自らの思考や判断を伝え表現することができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考え方を持つ人々と交流し、地域文化の活性化に貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

文化創造学科では、日本文化や地域文化への深い理解を持ち、地域社会のデジタル化の推進や新たな地域をデザインする力をもって地域文化の活性化に貢献できる人材の育成を目標としています。そのため、高等学校段階までの幅広い領域の学力が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」：あらゆる科目的基礎として必要な、読解力、論理的な思考力、表現力及びコミュニケーション能力の他、日本文化や地域文化を学ぶうえでの基礎的な知識や技術
- ▶「外国語（英語）」：文化に関することがらを普遍的に考えるために必要な外国語能力と読解力、及び外国語で自らの考えを表明する表現力とコミュニケーション能力
- ▶「地理歴史・公民」：将来、地域社会や世界において良識ある人物として活躍できるための知識・探究力、及び問題解決に主体的に取り組む姿勢を取るために必要な能力
- ▶「数学」及び「情報」：基本的な概念や原理・法則をよく理解したうえでの知識と計算力、論理的思考方法及びデータを理解し活用する基本的なスキル並びに地域のデジタル化推進に取り組む姿勢を取るために必要な能力
- ▶「理科」：基礎的な知識、及び様々な自然現象について科学的な観点から探究しようとする態度
- ▶その他、「芸術」など、あらゆる分野にわたって基礎的・常識的な知識と関心、新しい課題に対する積極性や地域文化の活性化に取り組む姿勢を取るために必要な能力を備えていることが望まれます。

③ 入学者に求め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

入試種別	一般選抜				学校推薦型選抜								総合型選抜		外国人留学生選抜						
	前期日程		後期日程		県内高校枠			地域貢献人材発掘枠													
選抜方法	大学入学共通テスト	小論文	面接	大学入学共通テスト	面接	小論文	面接	調査書	小論文	面接	調査書	活動報告書によるプレゼンテーション	一次選抜	二次選抜	自己推薦書	個人プレゼンテーション	面接	日本留学試験	小論文	面接	
素点	700	150	50	700	200	200	100	50	200	100	20	80	100	200	100						
評価の比重(*1)	78	17	6	78	22	57	29	14	50	25	5	20	100	67	33						
評価の観点	《知識・技能》	○	○		○		○		○		○				○			○	○	○	
	《思考力・判断力・表現力》	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(3) 国際文化学部 情報社会学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、情報技術を用いた課題解決について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

課題解決のために収集した情報を解釈し、自分の考え・意見をまとめ、分かりやすく伝え表現することができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考え方を持つ人々を受容し、情報技術を活用して地域が抱える課題の解決を行おうとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

この世界はたくさんの情報から成っています。しかし、情報は、それを見つける力を持たなければ手にすることはできません。情報社会学科では、この「情報を見つける力」を獲得し、さまざまなところから情報を取得し活用することを目指します。そして情報の活用により人々をつなぎ、世界を良くする人材を育成します。そのためには、高等学校段階までの幅広い領域の学力が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶ 「国語」：あらゆる科目の基礎として必要な、読解力及び解釈力、また論理的な思考力・表現力
- ▶ 「外国語（英語）」：外国語で書かれた文章の読解力や解釈力、外国語で自らの考えを表明する表現力
- ▶ 「地理歴史・公民」：将来、地域社会や世界において良識ある人物として活躍できるための知識・探究力及び問題解決に必要な能力
- ▶ 「数学」及び「情報」：数式やプログラム等によって世界が記述できるという考え方及び基本的な概念や原理・法則の理解
- ▶ 「理科」：科学的な観点・思考及び各領域における基本的な知識や法則
- ▶ その他、ここに掲げていない分野（「芸術」や「保健体育」など）や課外活動等にも積極的に取り組んでおくことが望されます。

③ 入学者に求め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

入試種別	一般選抜						学校推薦型選抜						総合型選抜			外国人留学生選抜		
	前期日程			後期日程			県内高校枠			地域貢献人材発掘枠								
選抜方法	大学入学共通テスト	小論文	面接	大学入学共通テスト	面接	小論文	面接	調査書	小論文	面接	調査書	活動報告書	一次 自己推薦書	二次 講義力試験	面接	日本留学試験	小論文	面接
	素点	700	150	50	700	200	150	100	50	160	100	60	80	100	200	100	総合的に評価する	
評価の比重(*1)	78	17	6	78	22	50	33	17	40	25	15	20	100	67	33			
評価の観点	《知識・技能》	○	○		○		○		○	○		○		○		○	○	○
	《思考力・判断力・表現力》	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○

(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、社会福祉の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けています。

《思考力・判断力・表現力》

誰もが幸せに暮らせる社会の実現について他者とともに語らい、自分の意見をまとめて伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

人や社会に关心があり、他者を理解し共感しながら福祉社会の実現のために貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

社会福祉学科では、社会福祉の理論や実践を学ぶために、高等学校段階の教育課程を幅広く修得し、国語・英語の基礎能力を基盤としつつ、社会への関心を強く持ち、社会における課題を解決するための基礎的な能力を身に付けておくことが望されます。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶ 「国語」：基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力・思考力
- ▶ 「英語」：基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力
- ▶ 「地理歴史・公民」、「数学」、「情報」及び「理科」：高等学校教育課程修了にふさわしい学力
- ▶ 「福祉*」：社会福祉の基礎的な知識 *福祉科や総合学科など、「社会福祉基礎」等を学ぶ教育課程がある高等学校等
- ▶ その他、探究的な見方・考え方を身に付け、課題解決を行うための基礎的な能力を備えていることが望されます。

③ 入学者に求め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

入試種別	選抜方法	一般選抜				学校推薦型選抜				総合型選抜		
		前期日程		後期日程		県内高校枠		地域貢献人材発掘枠				
素点	大学入学共通テスト	大学入学共通テスト	面接	大学入学共通テスト	面接	面接	調査書	面接	活動報告書	一次選抜	二次選抜	
評価の比重(*1)	55	45	55	45	80	20	67	33	100	100	100	200
評価の観点	《知識・技能》	○	○	○	○	○	○	○			○	
	《思考力・判断力・表現力》	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》		○		○	○	○	○	○	○	○	○

(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(5) 看護栄養学部 看護学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、看護の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けています。

《思考力・判断力・表現力》

人をとりまく様々な現象に自ら疑問を持ち、事実をもとに自分の意見をまとめて伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

人や看護に关心があり、責任感や協調性を持って保健医療福祉のために貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

看護学科では、社会の変化に対応し、地域のあらゆる人々の健康の維持・増進と生活の質の向上を推進するために、幅広い分野の知識と技術を習得し、看護を実践する能力や多職種協働のできる能力を培います。そのために、高等学校段階での教育課程を幅広く修得し、大学での学びの基礎となる基礎学力を身に付けておくことが望まれます。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶ 「国語」及び「外国語（英語）」：文意を正確に読み取る読解力、論理的思考力、自らの考えを表現する力、多様な人々とコミュニケーションをとるための能力
- ▶ 「地理歴史・公民」：物事を社会的視点から理解する能力
- ▶ 「数学」及び「情報」：数学の基本的な概念や計算の基礎、論理的思考力、データサイエンスを学ぶための基本的なコンピュータリテラシーやデータの取扱いの基礎的能力
- ▶ 「理科」：生命現象を理解するうえで必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識と科学的思考力と探究力
- ▶ その他、特別活動や課外活動を通じて培った積極性や責任感、主体性、協調性を備えていることが望まれます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

入 試 種 別	一般選抜				学校推薦型選抜						総合型選抜		
	前期日程		後期日程		県内高校枠			地域貢献人材発掘枠					
選 択 方 法	大学入学共通テスト	面 接	大学入学共通テスト	面接	総合問題	面 接	調査書	総合問題	面 接	活動報告書	一次選抜	二次選抜	
	自己推薦書	個 人 プレゼンテーション	面 接	面接	面接	面接	面接	面接	面接	面接	面接	面接	面接
素 点	700	200	600	300	250	200	50	250	100	100	100	200	100
評 価 の 比 重 (*1)	78	22	67	33	50	40	10	56	22	22	100	67	33
評価の観点	《知識・技能》	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	《思考力・判断力・表現力》	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》		○		○		○	○		○	○		○

(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(6) 看護栄養学部 栄養学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、栄養管理の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けています。

《思考力・判断力・表現力》

社会における様々な課題について多面的に考察し、自分の意見を論理的に分かりやすく伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

食と健康に关心があり、責任感や協調性を持って人々の健康福祉のために貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

栄養学科では、少子・超高齢社会において、地域のあらゆる人々の健康と生活の質の向上を積極的に推進するために対人援助力、課題解決思考力及び多職種協働力を備えた質の高い専門性を有する管理栄養士の育成を目的としています。このような質の高い管理栄養士となるために、必要とされる幅広い基礎的な能力を高等学校段階の教育課程で身に付けておくことが望れます。そのため、特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶ 「国語」及び「外国語（英語）」：文意を正確に読み取る読解力、論理的思考力、自らの考えを表現する力及び多様な人々とコミュニケーションをとるための能力
- ▶ 「地理歴史・公民」：物事を社会的視点から理解する能力
- ▶ 「数学」及び「情報」：数学の基本的な概念や計算の基礎、論理的思考力、データサイエンスを学ぶための基本的なコンピュータリテラシーやデータの取り扱いの基礎的能力
- ▶ 「理科」：生命現象や食品の特性を理解するうえで必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識と科学的思考力と探究力
- ▶ その他、特別活動や課外活動を通じて培った積極性や責任感、主体性、協調性を備えていることが望れます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

入試種別	一般選抜				学校推薦型選抜				総合型選抜	
	前期日程		後期日程		県内高校枠		地域貢献人材発掘枠			
選抜方法	大学入学共通テスト	面接	大学入学共通テスト	面接	面接	調査書	面接	活動報告書	一次選抜	二次選抜
素点	700	100	800	200	200	100	200	100	100	200
評価の比重(*1)	88	13	80	20	67	33	67	33	100	67
評価の観点	《知識・技能》	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	《思考力・判断力・表現力》	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

3 入試区分・種別、募集人員

- 入試区分は、「一般選抜」、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「外国人留学生選抜」とする。
- 「一般選抜」は「分離・分割方式」（前期日程・後期日程）により行う。
- 学校推薦型選抜は、「県内高校枠」及び「地域貢献人材発掘枠」とする。「県内高校枠」と「地域貢献人材発掘枠」との併願は認めない。
- 各入試種別の募集人員は以下のとおりとする。

学部	学科	入学定員	募集人員					
			一般選抜		学校推薦型選抜		総合型選抜	外国人留学生選抜
			前期日程	後期日程	県内高校枠 (附属高校枠含む)	地域貢献人材 発掘枠		
国際文化	国際文化	50	16	4	16	9	5	若干名
	文化創造	45	15	3	14	8	5	若干名
	情報社会	40	12	3	13	7	5	若干名
社会福祉	社会福祉	87	28	7	28	15	9	—
看護栄養	看護	55	21	3	22	5	4	—
	栄養	42	18	2	12	8	2	—

*総合型選抜において、合格者が各学科の募集人員に満たない場合は、その欠員分を一般選抜（前期日程）の募集人員に加えます。

*学校推薦型選抜において、合格者が各学科の募集人員に満たない場合は、その欠員分を各学科の一般選抜（前期日程）の募集人員に加えます。

*学校推薦型選抜の県内枠は附属高校枠（最大20名程度）を含みます（附属高校枠は県内高校枠に含まれるので、その合格者が募集人員を満たさない場合、空き人員は附属高校以外の県内高校の枠となる）。

*社会福祉学部では、外国人留学生選抜の募集はありません。

*看護栄養学部では、外国人留学生選抜の募集はありません。

4 入学者選抜方法等

【一般選抜】

(1)国際文化学部 国際文化学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法 大学入学共通テスト [3教科3科目]	国語	「国語」	必須	250 (*2)
	地理歴史 ・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目 (*1)	100 700
	数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」		
	情報	「情報Ⅰ」		
	外国語	「英語」	必須	350 (*3)
	小論文・面接・ 実技検査等	・小論文 ・面接「集団面接」(*4)		200 100 300
評価基準	【小論文】 文章の表現力とともに、国内外における社会的・文化的諸問題に関する基礎的知識、理解力、思考力・判断力を点数化して評価する。 【面接】 集団面接を行い、国内外における社会的・文化的諸課題への関心度及びその原因や背景を追求しようとする意欲・態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・判断力を点数化して評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と小論文及び面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。 合計点が同点の場合は、小論文、大学入学共通テストの外国語「英語」の順に得点が高い者を上位とする。			

《後期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法 大学入学共通テスト [3教科3科目]	国語	「国語」	必須	250 (*2)
	地理歴史 ・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目 (*1)	100 700
	数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」		
	情報	「情報Ⅰ」		
	外国語	「英語」	必須	350 (*3)
	小論文・面接・ 実技検査等	・面接「集団面接」(*4)		200 200
評価基準	【面接】 集団面接を行い、国内外における社会的・文化的諸課題への関心度とその原因や背景について追求しようとする意欲や態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・判断力・表現力を総合的に評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接、大学入学共通テストの外国語「英語」の順に得点が高い者を上位とする。			

(*1) 指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。

①地理歴史・公民は1教科とみなす。

②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。

③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。

(*2) 大学入学共通テストの「国語」(200点)に5/4を乗じたものを得点とする。

(*3) 大学入学共通テストの外国語「英語」のリーディング(100点)に5/2を乗じたものとリスニング(100点)の合計を得点とする。

ただし、受験上の配慮により、リスニングを免除された者については、リーディング(100点)の素点に7/2を乗じたものを得点とする。

(*4) 面接では、調査書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(2)国際文化学部 文化創造学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点	
評価方法	国語	「国語」	必須	250 (*2)	
	地理歴史 ・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択2科目 (*1)	200	700
	数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」			
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」			
	情報	「情報Ⅰ」			
	外国語	「英語」	必須	250 (*3)	
	小論文・面接・ 実技検査等	・小論文 ・面接「集団面接」(*4)		150 50	200
評価基準	<p>【小論文】 日本文化や地域文化の価値について自分の考えをまとめる上で読み解力、構成力、論理的思考力、発想力及び表現力を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考え方を持つ人々と共に地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。</p>				
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と小論文及び面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接、小論文の順に得点が高い者を上位とする。				

《後期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点	
評価方法	国語	「国語」	必須	250 (*2)	
	地理歴史 ・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択2科目 (*1)	200	700
	数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」			
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」			
	情報	「情報Ⅰ」			
	外国語	「英語」	必須	250 (*3)	
	小論文・面接・ 実技検査等	・面接「個人面接」(*4)		200	200
評価基準	<p>【面接】 個人面接を行い、異なる文化や多様な考え方を持つ人々と共に地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。</p>				
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接、大学入学共通テストの「国語」の順に得点が高い者を上位とする。				

(*1) 指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目から2科目の得点を採用する。

①地理歴史・公民は1教科とみなす。

②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。ただし、地理歴史・公民、数学、理科及び情報の4教科のうち、地理歴史・公民から2科目のみ又は理科から2科目のみを受験し、他の3教科を受験していない場合は、第1解答科目、第2解答科目の得点を共に採用する。

③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目を数学の得点として採用する。ただし、地理歴史・公民、数学、理科及び情報の4教科のうち、数学2科目のみを受験し、他の3教科を受験していない場合は、数学の2科目の得点を共に採用する。

(*2) 大学入学共通テストの「国語」(200点)に5/4を乗じたものを得点とする。

(*3) 大学入学共通テストの外国語「英語」のリーディング(100点)に2を乗じたものとリスニング(100点)に1/2を乗じたものの合計を得点とする。ただし、受験上の配慮により、リスニングを免除された者については、リーディング(100点)の素点に5/2を乗じたものを得点とする。

(*4) 面接では、調査書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(3) 国際文化学部 情報社会学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	国語	「国語」	必須	250 (*2)
	地理歴史 ・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目 (*1)	100
	数学	「数学 I, 数学 A」「数学 I」「数学 II, 数学 B, 数学 C」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」		
	情報	「情報 I」	必須	100
	外国語	「英語」	必須	250 (*3)
	小論文・面接・ 実技検査等	・ 小論文 ・ 面接「集団面接」(*4)		150 50
評価基準	<p>【小論文】 情報が持つ価値や社会とのさまざまな接点について自分の考えをまとめる上で必要な読み解き力、分析力、文章の構成力、思考力・表現力を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考え方を持つ人々の間に立ち共生を目指す上で求められる意欲や思考力・表現力を点数化して評価する。</p>			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と小論文及び面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接、小論文の順に得点が高い者を上位とする。			

《後期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	国語	「国語」	必須	250 (*2)
	地理歴史 ・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目 (*1)	100
	数学	「数学 I, 数学 A」「数学 I」「数学 II, 数学 B, 数学 C」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」		
	情報	「情報 I」	必須	100
	外国語	「英語」	必須	250 (*3)
	小論文・面接・ 実技検査等	・ 面接「集団ディスカッション」		200
評価基準	<p>【面接】 集団ディスカッションを通じて、異なる文化や多様な考え方を持つ人々の間に立ち共生を目指す上で求められる意欲や思考力・表現力を点数化して評価する。</p>			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接、大学入学共通テストの情報「情報 I」の順に得点が高い者を上位とする。			

(*1) 指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。

① 地理歴史・公民は 1 教科とみなす。

② 地理歴史・公民から 2 科目又は理科から 2 科目受験している場合、得点にかかわらず、第 1 解答科目の得点をその教科の得点として採用する。

③ 数学から 2 科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。

(*2) 大学入学共通テストの「国語」(200 点) に 5/4 を乗じたものを得点とする。

(*3) 大学入学共通テストの外国語「英語」のリーディング (100 点) に 2 を乗じたものとリスニング (100 点) に 1/2 を乗じたものの合計を得点とする。ただし、受験上の配慮により、リスニングを免除された者については、リーディング (100 点) の素点に 5/2 を乗じたものを得点とする。

(*4) 面接では、調査書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	大学入学共通テスト [3教科3科目]	国語	「国語」	必須
		地理歴史・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目 (*1)
		数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」	
		理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」	
		情報	「情報Ⅰ」	200 (*2)
		外国語	「英語」	
	小論文・面接・実技検査等	・面接「集団面接」(*4)	必須	200 (*3)
				500
評価基準	【面接】 集団面接を行い、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論理的思考力を点数化して評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			

《後期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	大学入学共通テスト [3教科3科目]	国語	「国語」	必須
		地理歴史・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目 (*1)
		数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」	
		理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」	
		情報	「情報Ⅰ」	200 (*2)
		外国語	「英語」	
	小論文・面接・実技検査等	・面接「集団ディスカッション・個人面接(*4)」	必須	200 (*3)
				500
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、意見の論理性、表現力、説得力、洞察力、議論全体を適切にすすめていく態度及び他者とともに語らうことができる能力を点数化して評価する。 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論理的思考力を点数化して評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			

(*1) 指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目的得点を採用する。

① 地理歴史・公民は1教科とみなす。

② 地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目的得点をその教科の得点として採用する。

③ 数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目的得点を数学の得点として採用する。

(*2) 大学入学共通テストの選択科目(100点)に2を乗じたものを得点とする。

(*3) 受験上の配慮により、大学入学共通テストのリスニングを免除された者については、リーディング(100点)の素点に2を乗じたものを得点とする。

(*4) 面接では、調査書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(5) 看護栄養学部 看護学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	国語	「国語」	必須	200
	地理歴史・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目(*1)	100
	数学	「数学I」、「数学A」、「数学I」、「数学II」、「数学B」、「数学C」	選択1科目(*1)	100
	情報	「情報I」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目(*1)	100
	外国語	「英語」	必須	200 (*2)
	小論文・面接・実技検査等	・面接「個人面接」(*3)	200	200
評価基準	【面接】個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接、大学入学共通テストの外国語「英語」の順に得点が高い者を上位とする。			

《後期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	国語	「国語」	必須	200
	数学	「数学I」、「数学A」、「数学I」、「数学II」、「数学B」、「数学C」	選択1科目(*1)	100
	情報	「情報I」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目(*1)	100
	外国語	「英語」	必須	200 (*2)
	小論文・面接・実技検査等	・面接「個人面接」(*3)	300	300
評価基準	【面接】個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接、大学入学共通テストの外国語「英語」の順に得点が高い者を上位とする。			

(*1) 指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目的得点を採用する。

① 地理歴史・公民は1教科とみなす。

② 地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目的得点をその教科の得点として採用する。

③ 数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目的得点を数学の得点として採用する。

(*2) 受験上の配慮により、大学入学共通テストのリスニングを免除された者については、リーディング(100点)の素点に2を乗じたものを得点とする。

(*3) 面接では、調査書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(6) 看護栄養学部 栄養学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	国語	「国語」	必須	200
	地理歴史・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目(*1)	100
	数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」	選択1科目(*1)	100
	情報	「情報Ⅰ」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目(*1)	100
	外国語	「英語」	必須	200(*3)
	小論文・面接・実技検査等	・面接「集団面接」(*4)	100	100
評価基準	【面接】 集団面接を行い、志望理由及び勉学への興味等について論理的に分かりやすく伝える力を点数化して評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、大学入学共通テストの総得点、「国語」、外国語「英語」の順に得点が高い者を上位とする。			

《後期日程》

試験区分	教科	科目	必須／選択	配点
評価方法	国語	「国語」	必須	200
	地理歴史・公民	「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」	選択1科目(*1)	100
	数学	「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ、数学B、数学C」	選択1科目(*1)	150(*2)
	情報	「情報Ⅰ」		
	理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目(*1)	150(*2)
	外国語	「英語」	必須	200(*3)
	小論文・面接・実技検査等	・面接「集団面接」(*4)	200	200
評価基準	【面接】 集団面接を行い、志望理由及び健康科学への興味等について論理的に分かりやすく伝える力を点数化して評価する。			
合否判定基準	大学入学共通テストの得点と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、大学入学共通テストの総得点、「国語」、外国語「英語」の順に得点が高い者を上位とする。			

(*1) 指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目的得点を採用する。

① 地理歴史・公民は1教科とみなす。

② 地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目的得点をその教科の得点として採用する。

③ 数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目的得点を数学の得点として採用する。

(*2) 大学入学共通テストの選択科目(100点)に3/2を乗じたものを得点とする。

(*3) 受験上の配慮により、大学入学共通テストのリスニングを免除された者については、リーディング(100点)の素点に2を乗じたものを得点とする。

(*4) 面接では、調査書を参考とするが、評価の対象にはしない。

【参考】一般選抜における大学入学共通テストの教科・科目選択について

- 1) ■国際文化学部 国際文化学科・情報社会学科
 ■社会福祉学部 社会福祉学科
 ■看護栄養学部 看護学科・栄養学科

指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。

- ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
- ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。
- ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。

【国際文化学科の例（3教科3科目）】

教科	科目	大学指定	得点	採否	結果	備考
国語	「国語」	必須	160	○	200	得点に5/4を乗じたもの
地歴 公民	第1解答科目	選択 1科目	a 70			
	第2解答科目		90	×		②により除外する
数学	数学①から1科目		50	×		③により除外する
	数学②から1科目		b 60			
理科	第1解答科目		c 40			
	第2解答科目		60	×		②により除外する
情報	「情報Ⅰ」		d 80	○	80	a～dで最も得点の高い科目
外国語	「英語」リーディング	必須	60	○	150	得点に5/2を乗じたもの
	「英語」リスニング		80	○	80	
合計					510	

- 2) ■国際文化学部 文化創造学科のみ

指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①～③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目から2科目の得点を採用する。

- ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
- ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。ただし、地理歴史・公民、数学、理科及び情報の4教科のうち、地理歴史・公民から2科目のみ又は理科から2科目のみを受験し、他の3教科を受験していない場合は、第1解答科目、第2解答科目の得点を共に採用する。
- ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目を数学の得点として採用する。ただし、地理歴史・公民、数学、理科及び情報の4教科のうち、数学2科目のみを受験し、他の3教科を受験していない場合は、数学の2科目の得点を共に採用する。

【文化創造学科（4教科4科目（基本））の例】

教科	科目	指定	得点	採否	結果	備考
国語	「国語」	必須	160	○	200	得点に5/4を乗じたもの
地歴 公民	第1解答科目	選択 2科目	a 85			
	第2解答科目		90	×		②により除外する
数学	数学①から1科目		b 95	○	95	a～dで最も得点の高い科目
	数学②から1科目		88	×		③により除外する
理科	第1解答科目		c 90	○	90	a～dで2番目に得点の高い科目
	第2解答科目		40	×		②により除外する
情報	「情報Ⅰ」		d 60			
外国語	「英語」リーディング	必須	60	○	120	得点に2を乗じたもの
	「英語」リスニング	必須	80	○	40	得点に1/2を乗じたもの
合計			545			

【文化創造学科（3教科4科目）の例】

教科	科目	指定	得点	採否	結果	備考
国語	「国語」	必須	160	○	200	得点に5/4を乗じたもの
地歴 公民	第1解答科目	選択 2科目	85	○	85	
	第2解答科目		90	○	90	②により採用する (他の教科を受験していない)
数学	数学①から1科目					
	数学②から1科目					
理科	第1解答科目					
	第2解答科目					
情報	「情報Ⅰ」					
外国語	「英語」リーディング	必須	60	○	120	得点に2を乗じたもの
	「英語」リスニング		80	○	40	得点に1/2を乗じたもの
合計					535	

【学校推薦型選抜】

I 県内高校枠

出願資格

- 県内高校枠は、山口県内に所在地のある高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部、**本学が高等学校と同等の教育を行っていると認める学校***及び高等専門学校 3年次を試験実施年度の3月に卒業（修了）見込みの者を対象とする。

*学校教育法施行規則の規定に基づき文部科学大臣が認定又は指定した課程を有する学校で、本学の求める資料を提出できるものとする。詳細に関しては、入試部門に問い合わせること。

(1) 国際文化学部 国際文化学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者			
	1 山口県内の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者	150	300	
2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者				
3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者				
4 国際文化学科に対し、適性を有する者				
5 合格した場合は、必ず本学に入学する者			50	
評価対象			配点	
評価方法	・小論文	150	300	
	・面接「集団面接」(*)	100		
	・調査書（全体の学習成績の状況）	50		
評価基準				
<p>【小論文】 文章の表現力とともに、国内外における社会的・文化的諸問題に関する基礎的知識、理解力、思考力・判断力を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 集団面接（英語面接を含む）を行い、国内外における社会的・文化的諸課題への関心度及びその原因や背景を追求しようとする意欲や態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・判断力を点数化して評価する。なお、英語面接では、英語で与えられた質問に対し、英語での応答と自己表現が求められる。</p> <p>【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。</p>				
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			

(*面接では、調査書、推薦書及び志望理由書を参考とするが、評価の対象にはしない。)

(2) 国際文化学部 文化創造学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者			
	1 山口県内の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者	200	350	
2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者				
3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者				
4 文化創造学科に対し、適性を有する者				
5 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
評価対象			配点	
評価方法	・小論文	200	350	
	・面接「集団面接」(*)	100		
	・調査書（全体の学習成績の状況）	50		
評価基準				
<p>【小論文】 日本文化や地域文化の価値について自分の考えをまとめる上での読み解き力、構成力、論理的思考力、発想力及び表現力を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考え方を持つ人々と共に地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。</p> <p>【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。</p>				
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			

(*面接では、調査書、推薦書及び志望理由書を参考とするが、評価の対象にはしない。)

(3) 国際文化学部 情報社会学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者			
	1 山口県内の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者	150	300	
2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者				
3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.6以上のある者				
4 情報社会学科に対し、適性を有する者				
5 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
評価対象			配点	
評価方法	・小論文	100	300	
	・面接「集団面接」(*)	50		
	・調査書（全体の学習成績の状況）			
評価基準	【小論文】 情報が持つ価値や社会とのさまざまな接点について自分の考えをまとめる上で必要な読解力、分析力、文章の構成力、思考力・表現力を点数化して評価する。			
	【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考え方を持つ人々の間に立ち共生を目指す上で求められる意欲や表現力・思考力を点数化して評価する。			
	【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。			
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			

(*)面接では、調査書、推薦書及び志望理由書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者			
	1 山口県内の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者	200	250	
2 志望動機が明確であり、社会福祉学科に対する適性を有する者				
3 人物・性行等、所属又は出身学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者				
4 学業成績優秀の者				
5 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
評価対象			配点	
評価方法	・面接「集団ディスカッション・個人面接(*)」	50		
	・調査書（全体の学習成績の状況）			
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、意見の論理性、表現力、説得力、洞察力、議論全体を適切にすすめていく態度及び他者とともに語らうことができる能力を点数化して評価する。 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論理的思考力を点数化して評価する。			
	【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。			
	面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			
合否判定基準	(*)面接では、調査書、推薦書及び志望理由書を参考とするが、評価の対象にはしない。			

(5) 看護栄養学部 看護学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者		
	1 山口県内の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者		
	2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者		
	3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者		
	4 看護学科に対し、適性を有する者		
	5 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
評価方法	評価対象		配点
	・総合問題	250	500
	・面接「個人面接」(*)	200	
評価基準	・調査書（全体の学習成績の状況）	50	
	【総合問題】 看護学科で学ぶための必要な学力として、国語（小論文を含み、古文・漢文を除く）の基礎的な学力、読解力、論理的思考力及び表現力並びに英語の基礎的な学力、読解力等をみる問題を出題し、点数化して評価する。		
	【面接】 個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。		
合否判定基準	【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。		
	総合問題及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。		
	(*)面接では、調査書、推薦書及び志望理由書を参考とするが、評価の対象にはしない。		

(6) 看護栄養学部 栄養学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者		
	1 山口県内の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者		
	2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者		
	3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上の者		
	4 栄養学科に対し、適性を有する者		
	5 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
評価方法	評価対象		配点
	・面接「集団ディスカッション・個人面接(*)」	200	300
	・調査書（全体の学習成績の状況）	100	
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、論理的思考力・展開力、表現力、協調性・傾聴力、社会性・責任感を点数化して評価する。		
	個人面接では、志望理由及び食と栄養に携わる専門職への興味・関心・動機等の質問に対する対応能力を通して、食と栄養等に関する知識・技能、さらにこれらの学びを深めていく必要性に関する理解力、思考力・判断力・表現力及び積極性を点数化して評価する。		
	【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。		
合否判定基準	面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。		
	(*)面接では、調査書、推薦書及び志望理由書を参考とするが、評価の対象にはしない。		

II 地域貢献人材発掘枠

出願資格

- 地域貢献人材発掘枠は、全国（山口県を含む）の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部、本学が高等学校と同等の教育を行っていると認める学校*及び高等専門学校3年次を試験実施年度の3月に卒業（修了）見込みの者を対象とする。将来、地域の活力創出や健康づくりに貢献できるリーダーとして、活躍が期待される人材の発掘を目的とする。そのために、学校の内外で意欲的に取り組んだ活動等の過程、成果及び展望を積極的に評価する。

*学校教育法施行規則の規定に基づき文部科学大臣が認定又は指定した課程を有する学校で、本学の求める資料を提出できるものとする。詳細に関しては、入試部門に問い合わせること。

(1) 国際文化学部 国際文化学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者 3 以下のいずれかの条件を満たす者 ① 調査書の国語、外国語又は英語、地理歴史、公民の中で、「教科の学習成績の状況」が3.7以上の教科が2教科以上ある者 ② 日本以外の国や地域に、小学校入学年齢以降に6ヵ月以上継続滞在した者 4 国際文化学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	評価対象	配点
		・小論文	150
評価方法	100 50 100	・面接「集団面接」(*1)	
		・調査書（全体の学習成績の状況）	
		・活動報告書(*2)	
			400
評価基準	<p>【小論文】 文章の表現力とともに、国内外における社会的・文化的諸問題に関する基礎的知識、理解力、思考力・判断力を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 集団面接（英語面接を含む）を行い、国内外における社会的・文化的諸課題への関心度及び地域の国際化に貢献しようとする意欲や態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・判断力を点数化して評価する。なお、英語面接では、英語で与えられた質問に対し、英語での応答と自己表現が求められる。</p> <p>【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。</p> <p>【活動報告書】 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。</p>		
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書及び活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。		

(*1)面接では、調査書、推薦書及び活動報告書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(*2)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等）を志願者本人が記載する。

(2) 国際文化学部 文化創造学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者		
	1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2025年3月に卒業（修了）見込みの者	2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者	3 調査書の国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)の中で、「教科の学習成績の状況」が3.7以上の教科が2教科以上ある者
4 文化創造学科に対し、適性を有する者		5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	
評価対象			配点
評価方法	・小論文	200	400
	・活動報告書(*2)によるプレゼンテーション	80	
・面接「集団面接」(*3)			100
・調査書（国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)の中で、成績のよい2つの教科の学習成績の状況）			20
評価基準	<p>【小論文】 日本文化や地域文化の価値について自分の考えをまとめる上での読解力、構成力、論理的思考力、発想力及び表現力を点数化して評価する。</p> <p>【活動報告書によるプレゼンテーション】 集団でプレゼンテーションを行い、主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望についての意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考えを持つ人々と共に地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。</p> <p>【調査書】 国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)の中で、成績のよい2つの教科の「学習成績の状況」を点数化して評価する。</p>		
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書及び活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。		

(*1) 「芸術」が開設されていない場合は、「美術」又は「音楽」を採用する。

(*2) 学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等）を志願者本人が記載する。

(*3) 面接では、調査書、推薦書及び活動報告書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(3) 国際文化学部 情報社会学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者		
	1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者		
2 人物・性行等、所属学校長（高等学校校長等）が責任をもって推薦し得る者			
3 調査書の国語、外国語又は英語、数学、情報(*1)の中で、「教科の学習成績の状況」が3.7以上の教科が2教科以上ある者			
4 情報社会学科に対し、適性を有する者			
5 合格した場合は、必ず本学に入学する者			
			評価対象
			配点
評価方法	・小論文	160	400
	・面接「集団ディスカッション」	100	
	・調査書（国語、外国語又は英語、数学、情報(*1)の中で、成績のよい2つの教科の学習成績の状況）	60	
	・活動報告書(*2)	80	
評価基準	【小論文】 情報が持つ価値や社会とのさまざまな接点について自分の考えをまとめる上で必要な読解力、分析力、文章の構成力、思考力・表現力を点数化して評価する。		
	【面接】 集団ディスカッションを行い、異なる文化や多様な考えを持つ人々の間に立ち共生を目指す上で求められる意欲や表現力・思考力を点数化して評価する。		
	【調査書】 国語、外国語又は英語、数学、情報(*1)の中で、成績のよい2つの教科の「学習成績の状況」を点数化して評価する。		
	【活動報告書】 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。		
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書及び活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。		

(*1) 「情報」の科目を他の教科の科目によって代替しており、かつ、調査書に「情報」の「教科の学習成績の状況」が記載されない場合は、代替科目の「科目の学習成績の状況」を採用する。なお、共通教科「情報」と専門教科「情報」のいずれも開設している場合は、成績の良い教科を採用する。

(*2) 学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等）を志願者本人が記載する。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者		
	1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者		
2 志望動機が明確であり、社会福祉学科に対する適性を有する者			
3 人物・性行等、所属又は出身学校長（高等学校校長等）が責任をもって推薦し得る者			
4 学業成績優秀の者			
5 合格した場合は、必ず本学に入学する者			
			評価対象
			配点
評価方法	・面接「集団ディスカッション・個人面接(*1)」	200	300
	・活動報告書(*2)	100	
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、意見の論理性、表現力、説得力、洞察力、議論全体を適切にすすめていく態度及び他者とともに語らうことができる能力を点数化して評価する。 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論理的思考力を点数化して評価する。 【活動報告書】 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。		
	面接の得点と活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。		
合否判定基準			

(*1) 面接では、調査書、推薦書及び活動報告書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(*2) 学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等）を志願者本人が記載する。

(5) 看護栄養学部 看護学科

出願要件	次の1～5の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者 4 看護学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
	評価対象		
評価方法	・総合問題	250	450
	・面接「個人面接」(*1)	100	
	・活動報告書(*2)	100	
評価基準	【総合問題】 看護学科で学ぶための必要な学力として、国語（小論文を含み、古文・漢文を除く）の基礎的な学力、読解力、論理的思考力及び表現力並びに英語の基礎的な学力、読解力等をみる問題を出題し、点数化して評価する。 【面接】 個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。 【活動報告書】 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。		
	合否判定基準	総合問題及び面接の得点と活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合には、面接の得点が高い者を上位とする。	

(*1)面接では、調査書、推薦書及び活動報告書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(*2)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等）を志願者本人が記載する。

(6) 看護栄養学部 栄養学科

出願要件	次の1～6の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長（高等学校長等）が責任をもって推薦し得る者 3 物理、化学、生物、地学のうち2科目を履修している者 4 調査書の理科の「教科の学習成績の状況」が4.0以上の者 5 栄養学科に対し、適性を有する者 6 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
	評価対象		
評価方法	・面接「集団ディスカッション・個人面接(*1)」	200	300
	・活動報告書(*2)	100	
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、論理的思考力・展開力、表現力、協調性・傾聴力、社会性・責任感を点数化して評価する。 個人面接では、志望理由及び食と栄養に携わる専門職への興味・関心・動機等の質問に対する対応能力を通して、食と栄養等に関する知識・技能、さらにこれらの学びを深めていく必要性に関する理解力、思考力・判断力・表現力及び積極性を点数化して評価する。 【活動報告書】 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。		
	合否判定基準	面接の得点と活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合には、面接の得点が高い者を上位とする。	

(*1)面接では、調査書、推薦書及び活動報告書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(*2)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等）を志願者本人が記載する。

【総合型選抜】

出願資格

- 国際文化学部(国際文化学科、文化創造学科、情報社会学科)、看護栄養学部(栄養学科)は、全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部、本学が高等学校と同等の教育を行っていると認める学校*及び高等専門学校3年次を試験実施年度の3月に卒業(修了)見込みの者を対象とする。社会福祉学部(社会福祉学科)、看護栄養学部(看護学科)は、全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部、本学が高等学校と同等の教育を行っていると認める学校*及び高等専門学校3年次を試験実施前年度の3月に卒業(修了)した者又は試験実施年度の3月に卒業(修了)見込みの者を対象とする。

*学校教育法施行規則の規定に基づき文部科学大臣が認定又は指定した課程を有する学校で、本学の求める資料を提出できるものとする。詳細に関しては、入試部門に問い合わせること。

(1) 国際文化学部 国際文化学科

出願要件		次の1~4の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校等を2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 次の①または②のいずれかの条件を満たす者 ①調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上であり、かつ調査書の外国语又は英語の「教科の学習成績の状況」が3.8以上の者、②英語資格・検定試験の成績がCEFRの基準でB1レベル以上の者(※) 3 国際文化学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者	評価対象	配点	
一次選抜	評価方法	・自己推薦書		100	100
二次選抜 (※1)	評価方法	・講義理解力試験 ・面接「個人面接」(※2)		200 100	300
評価基準		<p>【自己推薦書】 文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして大学入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかという観点から、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【講義理解力試験】 講義理解力試験では、本学教員が模擬講義を受講し、その内容についてレポートを作成する。作成したレポートに基づきプレゼンテーションを行い、レポート及びプレゼンテーションを通して、知識、理解、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 個人面接を行い、国際文化学科での学びに必要な思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p>			
合否判定基準		一次選抜：自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。一次選抜の合格者の上限は、15人程度とする。一次選抜において、得点が同点の場合は、調査書の「全体の学習成績の状況」の数値の高い者を上位とする。 二次選抜：講義理解力試験と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を決定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とする。			

(※1) 二次選抜は、一次選抜合格者のみに実施する。

(※2) 二次選抜の面接では、調査書及び自己推薦書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(※)出願要件2②のCEFR「B1」レベル以上とは、下表に示す各資格・検定試験のスコア又は基準値以上とする。

資格・検定試験	スコア・基準値	出願時提出書類
英検(実用英語技能検定)	1950(ただし、2級以上の試験を二次試験まで受験した者に限る)	合格証明書、英検CSEスコア証明書、個人成績表のいずれか1点
GTEC(4技能版)	930	「GTEC」OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
TEAP(4技能版)	225	成績表(スコアレポート)
TEAP CBT	420	成績表(スコアレポート)
ケンブリッジ英語検定	140、またはPET(B1 Preliminary)以上の認定	認定証、結果ステートメントのいずれか1点
IELTS	4.0	成績証明書

・表中の資格・検定試験については、出願期間初日から遡って2年以内に受験したものに限ります。

・各資格・検定試験の4技能全て受験する必要があります。

・スコアを基準としているものについては、合否は問いません。

(2) 国際文化学部 文化創造学科

出願要件		次の1～4の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 調査書の国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)、数学、情報(*2)の中で、「教科の学習成績の状況」が3.7以上の教科が2教科以上ある者 3 文化創造学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
		評価対象		
一次選抜	評価方法	・自己推薦書	100	100
二次選抜 (*3)	評価方法	・個人プレゼンテーション ・面接「個人面接」(*4)	200 100	300
評価基準		<p>【自己推薦書】 文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして大学入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかという観点から、思考力、判断力、表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【個人プレゼンテーション】 与えられた課題（文章、図表等も含む）について、その内容を理解し、みずからを考えをまとめた発表資料（文章及び絵図など）を作成し、その資料に基づいてプレゼンテーションを行う。発表資料及びプレゼンテーションを通して、知識・理解、思考力、判断力、表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 個人面接を行い、地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。</p>		
合否判定基準		<p>一次選抜：自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。一次選抜の合格者の上限は、24人程度とする。一次選抜において、得点が同点の場合は、調査書の「全体の学習成績の状況」の数値の高い者を上位とする。</p> <p>二次選抜：個人プレゼンテーションと面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を決定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とする。</p>		

(*1) 「芸術」が開設されていない場合は、「美術」又は「音楽」を採用する。

(*2) 「情報」の科目を他の教科の科目によって代替しており、かつ、調査書に「情報」の「教科の学習成績の状況」が記載されない場合は、代替科目的「科目的学習成績の状況」を採用する。なお、共通教科「情報」と専門教科「情報」のいずれも開設している場合は、成績の良い教科を採用する。

(*3) 二次選抜は、一次選抜合格者のみに実施する。

(*4) 二次選抜の面接では、調査書及び自己推薦書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(3) 国際文化学部 情報社会学科

出願要件		次の1~4の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者 3 情報社会学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
		評価対象		
一次選抜	評価方法	・自己推薦書		
二次選抜 (*1)	評価方法	・講義理解力試験 ・面接「個人面接」(*2)		
評価基準		<p>【自己推薦書】 文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして大学入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかという観点から、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【講義理解力試験】 講義理解力試験では、本学教員が行う模擬講義を受講し、その内容についてレポートを作成する。作成したレポートに基づきプレゼンテーションを行い、レポート及びプレゼンテーションを通して、知識、理解、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 個人面接を行い、情報社会学科での学びに必要な思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p>		
合否判定基準		<p>一次選抜：自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。一次選抜の合格者の上限は、15人程度とする。一次選抜において、得点が同点の場合は、調査書の「全体の学習成績の状況」の数値の高い者を上位とする。</p> <p>二次選抜：講義理解力試験と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を決定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とする。</p>		

(*1) 二次選抜は、一次選抜合格者のみに実施する。

(*2) 二次選抜の面接では、調査書及び自己推薦書を参考とするが、評価の対象にはしない。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

出願要件		次の1~4の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2026年3月に卒業（修了）した者又は2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 調査書の国語、地理歴史又は公民の「教科の学習成績の状況」がいずれも3.5以上の者 3 社会福祉学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
		評価対象		
一次選抜	評価方法	・自己推薦書		
二次選抜 (*1)	評価方法	・個人プレゼンテーション ・面接「個人面接」(*2)		
評価基準		<p>【自己推薦書】 文章の表現力とともに、高校時代に地域貢献活動等に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして大学入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は地域共生社会の実現にどのように貢献したいかという観点から、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【個人プレゼンテーション】 提示された課題に対し、その内容を理解し、自らの考えをまとめ、個人プレゼンテーションを行う。個人プレゼンテーションを通して、知識・理解、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論理的思考力を点数化して評価する。</p>		
合否判定基準		<p>一次選抜：自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。</p> <p>一次選抜の合格者の上限は、18人程度とする。</p> <p>二次選抜：個人プレゼンテーションと面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を決定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とする。</p>		

(*1) 二次選抜は、一次選抜合格者のみに実施する。

(*2) 二次選抜の面接では、調査書、自己推薦書及び個人プレゼンテーションの内容を面接時の参考とするが、評価の対象にはしない。

(5) 看護栄養学部 看護学科

出願要件		次の1～4の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2026年3月に卒業（修了）した者又は2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上、かつ英語資格・検定試験の成績がCEFRの基準でA2レベル以上の者（※） 3 看護学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
		評価対象		
一次選抜	評価方法	・自己推薦書	100	100
二次選抜 (※1)	評価方法	・個人プレゼンテーション ・面接「個人面接」（※2）	200 100	300
評価基準		<p>【自己推薦書】 高校時代の正課及び正課外学習の成果とそれによって得られた自分の強みについて、また具体的な取り組み過程を根拠として示すという観点から、思考力・判断力・表現力、主体性、協調性を点数化して評価する。</p> <p>【個人プレゼンテーション】 出題された課題について、一定時間でみずからを考えをまとめ発表する。プレゼンテーション資料の作成は求めない。プレゼンテーションを通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力を点数化して評価する。</p> <p>【個人面接】 個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。</p>		
合否判定基準		<p>一次選抜：自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。一次選抜の合格者の上限は、16人程度とする。</p> <p>二次選抜：個人プレゼンテーションと個人面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を決定する。二次選抜の合格基準は、合計得点率が50%以上あること。二次選抜において、合計点が同点の場合は、個人プレゼンテーションの得点の高い者を上位とする。</p>		

（※1）二次選抜は、一次選抜の合格者のみに実施する。

（※2）二次選抜の面接では、調査書及び自己推薦書を参考とするが、評価の対象にはしない。

（※）出願要件2のCEFR「A2」レベル以上とは、下表に示す各資格・検定試験のスコア又は基準値以上とする。

資格・検定試験	スコア・基準値	出願時提出書類
英検（実用英語技能検定）	1700（ただし、準2級以上の試験を二次試験まで受験した者に限る）	合格証明書、英検CSEスコア証明書、個人成績表のいずれか1点
GTEC（4技能版）	680	「GTEC」OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
TEAP（4技能版）	135	成績表（スコアレポート）
TEAP CBT	235	成績表（スコアレポート）
ケンブリッジ英語検定	120、またはKET（A2 Key）以上の認定	認定証、結果ステートメントのいずれか1点
IELTS	3.0	成績証明書

・表中の資格・検定試験については、出願期間初日から遡って2年以内に受験したものに限ります。

・各資格・検定試験の4技能全て受験する必要があります。

・スコアを基準としているものについては、合否は問いません。

(6) 看護栄養学部 栄養学科

出願要件		次の1～4の全てに該当する者 1 全国（山口県を含む）の高等学校等を2027年3月に卒業（修了）見込みの者 2 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上の者 3 栄養学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者		
		評価対象		
一次選抜	評価方法	・自己推薦書	100	100
二次選抜 (*1)	評価方法	・個人プレゼンテーション ・面接「個人面接」(*2)	200 100	300
評価基準		<p>【自己推薦書】 文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして大学入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかという観点から、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。</p> <p>【個人プレゼンテーション】 提示された課題に対し、その内容を理解し、みずからの考えをまとめ、個人プレゼンテーションを行う。個人プレゼンテーションを通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力を点数化して評価する。</p> <p>【面接】 個人面接を行い、食と栄養について学ぶうえで必要な思考力・判断力・表現力及び協調性を点数化して評価する。</p>		
合否判定基準		<p>一次選抜：自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。一次選抜の合格者の上限は、8人程度とする。</p> <p>二次選抜：個人プレゼンテーションと面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を決定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、個人プレゼンテーションの得点の高い者を上位とする。</p>		

(*1) 二次選抜は、一次選抜の合格者のみに実施する。

(*2) 二次選抜の面接では、調査書及び自己推薦書を参考とするが、評価の対象にはしない。

令和9年度（2027年度）入学者選抜合格者に実施する入学期前学習について

学校推薦型選抜合格者及び総合型選抜合格者には、高校での自己の学修の到達程度を把握し大学入学後の履修に役立ててもらうため、大学入学共通テストに出願し、各学科の指定する教科・科目を受験することを推奨する。なお、やむを得ない理由等により大学入学共通テストに出願できなかった場合は、新聞等で発表される試験問題を用いて自宅等で受験すること（その際のリスニングの受験は免除する）。また、受験後に自己採点結果を提出すること。ただし、その採点結果によって合格を取り消すことはないが、入学後の指導の参考とする場合がある。

■学校推薦型選抜合格者及び総合型選抜合格者に推奨する大学入学共通テストの受験指定教科・科目

国際文化学部	国際文化学科	<ul style="list-style-type: none">国語地理歴史、公民、数学、理科、情報から選択1科目外国語（英語）
	文化創造学科	<ul style="list-style-type: none">国語地理歴史、公民、数学、理科、情報から選択2科目外国語（英語）
	情報社会学科	<ul style="list-style-type: none">国語地理歴史、公民、数学、理科から選択1科目外国語（英語）情報
社会福祉学部	社会福祉学科	<ul style="list-style-type: none">国語地理歴史、公民、数学、理科、情報から選択1科目外国語（英語）
看護栄養学部	看護学科	<ul style="list-style-type: none">国語地理歴史、公民から選択1科目数学、情報から選択1科目理科から選択1科目外国語（英語）
	栄養学科	<ul style="list-style-type: none">国語地理歴史、公民から選択1科目数学、情報から選択1科目理科から選択1科目外国語（英語）

また、上記両選抜の合格者には、次のとおり入学期前学習を課すこととする。詳細は合格発表後に合格者に案内する。

■学校推薦型選抜合格者及び総合型選抜合格者に課す入学期前学習

教科名等	実施学部・学科
英語	国際文化学部：国際文化学科、文化創造学科、情報社会学科 社会福祉学部：社会福祉学科 看護栄養学部：看護学科、栄養学科
数学	国際文化学部：国際文化学科、文化創造学科、情報社会学科
化学・生物	看護栄養学部：栄養学科